

1 めざす学校像等

・幼稚園像

子どもの自主性・自発性の発露である「遊び」を大事にし、そこに教員も一緒になって関わりながら「共に成長・発展していける」ような、「元気で笑顔が溢れる」幼稚園をめざします。

・子ども像

かしこさ（知）、やさしさ（徳）、たくましさ（体）の調和のとれた、「心身ともにたくましい子ども」を育てます。すなわち、自ら様々な活動を「遊ぶ」ことができる子ども、さらに小学校教育の基盤となる資質・能力を持った子どもを育成します。

・教員像

限られた時間の中で優先すべき事柄は何かを考えつつ、他者と協働して保育や業務に取り組みます。また、自身の保育や研究についての取り組みを相対化する姿勢を持って様々な実践や意識に耳を傾けるとともに、スキルアップのための研修に自ら取り組みます。

〈幼稚園教育目標〉

- ① 心身ともにたくましい子どもの育成、② 健康な体の子ども、③ よく考えて最後までやりぬく子ども

〈幼稚園運営目標〉

- ① 子どもが「幼稚園に来るのが楽しい」、保護者は「通わせて良かった」と思える幼稚園づくり
② 教員が互いの特徴〈得意・不得意〉を理解し合った上で、各々の良さが発揮される教員集団づくり
③ 本園の魅力の地域への広報・発信とそれによる園児確保

2 中期的目標（3年間程度）

（１）魅力的な園づくり ―附属園としての役割遂行―

１）働きやすい園内組織と教員集団づくり

- ・教員が保育に集中できる環境づくり
- ・教員研修の充実

２）特徴ある保育実践の創出と教員養成への貢献

- ・担任の個性が活かされた保育や行事の実現
- ・うれしのタイムと学年学級活動の接続
- ・ICT を活用した保育の推進
- ・小学校（教育）とのスムーズな連結
- ・学部生に対する実地教育の充実

３）大学（含 幼年教育・発達支援コース）との連携・協働

- ・幼年教育発達支援コース等との連携による保育と研究の充実
- ・幼児期としての Steam 教育の一層の推進

（２）園の魅力の発信 ―園児確保に向けて―

１）預かり保育の充実

- ・長期休暇中の保育内容の充実
- ・預かり保育指導員の研修の充実

２）園の保育についての公開と発信

- ・大学や加東市の展覧会への積極的参画
- ・オープンスクールの定期的実施
- ・未就園児施設（かとう Genki 等）との連携

３）HP や SNS 等を使った効果的な園の情報発信

3 今年度の重点目標と具体的な教育取組

長年にわたって園として大事にしてきた保育に加えて、新たな課題に対応した保育を探索します。また、共働き世帯の増加や少子化の加速が顕著な状況下で、本園の保育の特徴や独自性を地域に積極的に発信することにより園児の確保に努めます。具体的には、「魅力的な園づくり」「園の魅力の発信」の2本柱を設定して取り組みます。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成状況
1 魅力的な園づくり ―附属園としての役割遂行―	(1)働きやすい園内組織・教員集団づくり	① 教員が保育に集中できる環境づくり 教員が「日々の保育の充実」「先導的な実践研究」、そして「学生への実習指導」に取り組むことができる環境づくりを進めるべく、教員会議の簡略化・短時間化、さらに新たに導入した校務支援システム(BLEND)の効果的な運用に取り組む。 ② 教員研修の充実 教員の指導能力向上に向けて、少なくとも学期に1回程度は他園の保育参観や研究会参加ができるように体制を整える。	・教員会議の時間、及びペーパーレス化状況 ・BLENDの活用状況 ・教員の時間外勤務の時間数 ・教員の自主的研修の回数	【達成状況 3 (達成)】 ①必要な情報は教員共有フォルダー内ファイルで確認することを徹底し、教員会議では「議論が必要なこと」のみ議題として取り上げた。その結果、会議はほぼ毎回1時間以内で終われるようになった。また、BLENDの積極的活用、校務支援員のサポートによって、教員は本来的業務の保育に集中できた。時間外勤務時間数は最大月で約5時間。 ②外部講師を招いた教員全員対象の研修(『価値観の違いや伝え方のズレを強みにできるチームづくり』)を夏休みに実施し、2学期以降の協働的保育に繋がった。ただ、希望する自主研修に参加できるように不在時の担任体制を工夫したが、目標値である学期1回の研修機会の保障には至らなかった。
	(2)特徴ある保育実践の創出と教員養成への貢献	① 担任の個性が生かされた保育や行事の実現 各担任が持つ特長・良さが反映された保育(学級活動や学級づくり)の顕在化に積極的に取り組む。そのために、教員が互いに刺激を得ることができるよう、保育について意見交換を定期的に行う。 ② うれしのタイムと学級学年活動の接続 本園が開園以来大事にしてきた「うれしのタイム」での園児の個性的な遊びを、その後の「学年学級活動」に広げていくことで、子どもの興味関心が拡大・深化していくよう取り組みを進める。 ③ ICTを活用した保育の推進 昨年度から設置したICT担当教員を中心に、新しい取り組みを園全体に広げる。	・教員アンケートの実施と結果分析 ・両者の接続事例の収集と共有の状況 ・ICT活用事例の把握、並びに大型ディスプレイ等の活用状況	【達成状況 3 (達成)】 ①担任がそれぞれ保育課題を明確化し、学年単位で相談し合いながら保育に取り組むことができた(協働的保育に対する保護者評価95%)。 ②年長・年中児を中心にSTEAM教育を意識した活動(制作・キュレーション)が展開でき、その成果発表は研究会参加者から好評を得た。また、生活発表会の内容についても日常の遊びを発展的に題材として取り上げていくことができた(子供の主体性尊重に対する保護者評価99%)。 ③学年学級活動に関わって年長児が大型ディスプレイ(今年度導入)を活用する場面が見られたが、すべての歳児での積極的活用には至っておらず次年度への課題である。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成状況
1 魅力的な園づくり ― 附属園としての役割遂行 ―	(2) 特徴ある保育実践の創出と教員養成への貢献	④ 小学校（教育）とのスムーズな連結 園児がスムーズに小学校に上がることができるよう、附属小学校との交流・連携を一層深めるとともに、園の保育の改善に取り組む。また、保護者に対して進学に向けた情報提供と相談を行う。	・ 附属小学校低学年との交流状況 ・ 公立校進学を見通した情報提供の場設定	④1,2 学期を中心に、年長児が1 年生と頻繁に交流することで（担任間の意見交換、制作物の小学校プールでの公開等）、連携した STEAM 保育ができた。また、小学校への進学に関して保護者からの要望に応えた面談を適宜実施するとともに、進学先の公立小学校と情報共有を図ることができた（小, 中学校との連携に対する保護者評価 86%）。
	(3) 大学との連携・協働による保育と研究の活性化	⑤ 学部生の実地教育の充実 電子化の推進と、さらに限られた時間内での効果的な実習のあり方や指導方法を検討する。	・ 実習後のアンケート等による学生の満足度と要望の把握	⑤実習ノート電子化2 年目の今年度、教員は電子媒体を通じた指導を円滑に行うことができた。学生からも実習に対して高い満足度が得られた（学部学生の幼稚園実習満足度 100%）。
		① 幼年教育発達支援コース等との連携による保育と研究の充実 本園の強みである幼児教育の専門家である大学教員と定期的に会合を持つ中で、実践や研究に対する示唆を継続的に得るとともに、学部生への指導について情報を共有する。 ② 幼児期としての STEAM 教育の一層の推進 大学と附属学校園が共同して取り組む Steam 教育を志向した研究に、大学教員の指導を得て園としての取り組みを促進させる。	・ コース教員との定期的な意見交換と協議の実施状況 ・ Steam 教育推進教員による研修と指導会の実施	【達成状況 4（予定以上）】 ①年間を通じて定期的に（1 週間に1 回程度）、コース教員が交代で来園・保育観察をし、園の保育について有意義な意見交換ができた。また、今年度から大学授業（「保育内容の研究」5 科目）への園教員の参画がスタートし、学部生の指導に関する協働体制が作られた。 ②森山教授並びに永田教授の数回のアドバイスを得ながら、1 学期から研究担当教員が中心となって保育の STEAM 化に取り組めた。その成果は7 月の附属学校園全国大会での発表（リーフレット化）、さらに12 月の公開研究会での研究成果発表に繋がった（大学・大学教員の力を活かした保育についての保護者評価 100%）。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成状況
2 園の魅力の発信 ―園児確保に向けて―	(1) 預かり保育の充実	① 長期休暇中の保育内容の充実 特に長時間保育となる長期休暇中の保育について、より良いあり方を園として具体的に検討する。 ② 預かり保育指導員の研修の充実 指導員の半数が交代した今年度、保育のあり方の再考を含めて、指導能力の向上につながる研修を企画する。	・長期休暇中の特別プログラムの新設（1つ以上） ・必要な研修内容についての指導員のニーズ把握	【達成状況 3（達成）】 ①酷暑の中の新たな保育プログラムとして、水遊びを提案・実現し、園児や保護者から好評を得た（9月実施の利用者アンケート結果より）。また、学部生によるサポートを随時導入することで活動的な遊びの展開が図られた。 ②保育観について指導員と面談する機会を、学期に1回程度全体に、また必要に応じて個別に複数回設定したが、勤務シフトの問題等があり、具体的研修の実施には至らなかった。預かり保育の質を上げていく上で次年度に取り組むべき重要課題である。
	(2) 園の保育についての外部公開	① 大学や加東市の展覧会への積極的参画 本園の保育を地域に知ってもらうべく、園外での発表の場に積極的に作品等を提出する。 ② オープンスクール等の定期的実施 昨年度から開始した土曜日開催のオープンスクールを拡充するとともに、継続的に実施している月1回の子育てひろばを開催することで、在園児及び未就園児保護者に対して本園の保育を周知する。 ③ 未就園児施設(かとう Genki 等)との連携 山国プラザにあるかとう Genki 等の未就園児施設との交流、並びに連携を行う。	・大学美術展及び加東市こども絵画展への園児の作品の出品状況等 ・土曜日に加えて小学校と同日開催のオープンスクール(2回)の実施 ・未就園児と保護者が集う、かとう Genki の企画への参画、並びに活動の定期的受け入れ	【達成状況 4（予定以上）】 ①年長児の陶芸作品の展示（大学美術展：2月下旬）、全園児の絵画出品（加東市こども絵画展：3月上旬）に加えて、今年度から新たに子ども人権ポスターを年長児全員で作成・出品し（1月）、園の存在を内外にアピールすることができた（その成果は加東市制作のカレンダーに掲載されている）。 ②オープンスクール及び子育てひろばを予定回数実施し、特に未就園児家族の来園を多く得ることができ、昨年度と同様数の新入園児確保に繋げることができた。 ③かとう Genki のイベントに管理職が参画（園長が「すくすく子育て」で出前講座1回、副園長が「わくわくデー」でワークショップ1回実施）するとともに、未就園児家族の園への「ちょこっと散歩」を各学期に1回以上受け入れた。
	(3) HP や SNS 等を使った効果的な情報発信	昨年度更新した園 HP、新規開設した公式Instagramを使った、より効果的な情報発信（来園せずとも保育の様子を知ることができるように）に取り組む。	・情報発信の内容等の適切さについての保護者や第三者からの評価	【達成状況 3（達成）】 園行事があった日を中心に、Instagramを月に数回更新した。フォロアー数130は昨年比1.3倍となった（保育についての園からの積極的発信に対する保護者評価81%）。